



富屋地区
シンボルマーク

みんなで 仲良くやっぺ ふるさと富屋

109号

2024 (令和6年)
3月発行
広報とみや

市長と“まちづくり懇談会”を開催

12月21日(木)に、宇都宮市と富屋地区まちづくり連絡協議会の共催による「まちづくり懇談会」が富屋地区市民センターで開催され、各自治会や各種団体の役員など47名が出席しました。

初めに、富屋地区を代表して、まちづくり連絡協議会の池田勝浩会長から「LRTの開通により駅東の発展が素晴らしい。富屋地区は富屋の良さを生かした取り組みをしていきたい。」と挨拶がありました。

次に、佐藤市長から「世界は人口が増加しているが、日本は減少し超高齢化社会となっている。宇都宮市は現在人口52万人だが、2050年には42万人まで減少すると予想されるので、出生率を上げるなどの少子化対策に取り組んでいきたい。」など、挨拶を兼ねて市の取組の説明がありました。

続いて、地域代表意見2件、自由討議5件が出され、それを受けて市長からの説明がありました。

【地域代表意見】

(1) 宇都宮市北西部の活性化について

池田会長：大晃跡地周辺の土地の有効活用を望んでいるが、現在の状況について

市長回答：大晃跡地は民間の土地であるためうまく進んでいないが、少しでも早く有効に使われていくようにしたい。

(2) 地域ビジョンの実現に向けて

鈴木副会長：「地域みんなの夢実現事業」を実施し、富屋の宝を皆で守り、伝統芸能を継承するなど富屋ブランドを確立したい。

市長回答：富屋の魅力ガイドブック、のぼり旗、案内人認定など、市内外に発信できるものである。地道にやるのがブランド化となる。

【自由討議】 5団体

- ① 上町自治会：市道6193号線の安全対策について
- ② 体育協会：スポーツ体制づくり・北西部体育施設について
- ③ 下横倉町自治会：富屋サイクリングロードの整備について
- ④ 活力あるむらづくり：農業を取り巻く環境について
- ⑤ 青少年育成会：空き家、空き地の活用について



マクラメ

“結ぶ”を楽しむ



タペストリーとティッシュカバー
タペストリーは1年かけた力作です

会社を定年退職したら、習い続けている生け花のほかに、何か習いたいと思っていた私が初めに習い始めたのが、果物や石鹸を彫って装飾をするカービングでした。その先生がマクラメも教えていると知りマクラメを習い始めました。マクラメは機械や器具を使わずに手だけで糸どうしを交差させて結ぶことで面や模様を作り出していく技法です。これまでストラップから植木鉢カバーや茶托、タペストリーなどと制作してきましたが、同じものを制作しても糸の素材や色を替えたり、結び方を替えたりすると自分の発想を活かしたオリジナルの作品ができるのが魅力です。できた作品をプレゼントして喜んでいただけたときが私の喜びとなっています。これからも楽しみながら技術の向上に努め、色々な作品に挑戦したいと思います。

(下町自治会 大嶋まち子)

歩いて実感！歴史遺産残る徳次郎宿の魅力！

12月3日(日)に富屋地区まちづくり連絡協議会主催の「第1回歩いて知ろう！日光街道18番目の徳次郎宿」が開催されました。日光市や那珂川町など遠方の方を含め27名の方が参加しました。3班に分かれ、徳次郎宿に関わりのある12の歴史遺産を「徳次郎宿案内人」が説明を加えながら案内しました。晴天の下、7kmのコースを3時間で散策してきた参加者の皆さんからは、「徳次郎宿にこんなにたくさんの歴史遺産が残されていて驚きました。」「説明付きで屋台を見られてよかったです。来年も参加します。」など、歴史遺産残る徳次郎宿の魅力を感じ取っていただけました。

この行事は、宇都宮市の「地域みんなの夢実現事業」を活用して実施したものです。



今回のコースの地図を確認したい方は、下のQRコードからどうぞ。



富屋に学ぶ子どもたち

○富屋特別支援学校 「地域とともに」 校長 栗原 寿理

本校では、地域と連携した学習活動の充実を重点目標の一つとして取り組んでいます。富屋という地域を生かした学習としては、学校周辺での徒歩学習や買い物学習、地区市民センターを実習の場として清掃の学習等に取り組んできました。

今年度は新たに、高等部生徒が、バス停の清掃を行いました。毎日通学で使っているバス停を、自分たちも、地域の皆さんも気持ちよく利用できるよう、心を込めて除草や看板の磨き上げを行いました。

地域や社会に関心を持ち、地域や人とのつながりを築いたり、地域に貢献したいという意識を高めたりできるように、これからも富屋での学びを広げ、深めていきたいと思えます。地域で活動している児童生徒の姿を見かけましたら、どうぞ温かく見守ってください。また、本校の児童生徒が地域の皆さんと一緒にできる活動がありましたら、ぜひお知らせください。今後ともよろしく願いいたします。



万が一の災害に備えて“防災訓練”開催



2月25日(日)に、富屋地区防災会の主催による防災訓練が地区市民センターで開催され、地区防災会、西消防署富屋分署、消防団、各自治会、婦人会、婦人防火クラブ、地区市民センターなど各種団体が参加しました。

訓練は、令和元年10月に宇都宮に甚大な被害をもたらした台風19号の田川の冠水による家屋浸水を想定した避難訓練でした。内容は、自主避難を希望する人から連絡を受けてからの手順、避難所開設や避難者到着時の対応、避難誘導の仕方、消防団による災害場所の巡回とその報告など、細部にわたって訓練が行われ、それぞれの役割分担が明確になり有意義な時間となりました。

次に、避難所開設体験を5つ行いました。各自治会からの参加者27名が、パーティションの設置や収納体験、土のうの作り方、AED講習、投光器の設置体験、初期消火訓練を体験しました。初めて体験する内容もあり、やってよかったとの声が多くありました。

富屋分署の鈴木様から、「起こりやすい災害を想定し、この訓練を通して振り返ることが大切だ。」というお話をいただきました。

いつどこで起こるか分からないのが災害です。改めてご家庭においても災害時の避難の仕方や備品などを確認しておくといよいのではないのでしょうか。



ふるさと再発見⑧

西根の男体山信仰塔



徳次郎町西根の観音堂石段の入口に、見上げるような大きな男体山信仰塔が建っています。塔の高さは2.1m、土台の自然石を含めると約3mになります。正面に「男體山」、裏面に文政四年(1821)巳年三月と刻まれており、200年ほど前に西根地区の講中(信仰組織)によって建てられたものと考えられます。形状は石灯籠の形をしていて、石材はきめの細かい徳次郎石が使われており、今なお美しい姿を保っています。

男体山信仰塔は西根地区以外にも、上町、門前、大網、上金井に見られます。これらの塔は江戸時代の文政期(1818～)から弘化期(1844～)に建てられており、この時代に男体山信仰が大変盛んであったことが窺えます。山岳を信仰する塔はこれ以外にも、白雲山(群馬県妙義山の主峰)や石尊大権現(神奈川県大山)などの信仰塔があります。特に白雲山信仰塔は地区内に7カ所あり、時代の上では男体山信仰塔よりも、早い時期に建てられていたようです。(文化財調査員 池田貞夫)

富屋西部ホテル愛護会が県知事表彰

富屋西部ホテル愛護会が昨年11月16日(木)に、栃木県公館で行われた栃木県青少年健全育成功労者等表彰式において、青少年健全育成団体として県知事表彰を受けました。

この度の受賞は、富屋小学校3年生が行っているホテル飼育の指導や支援、夏休みに希望児童を対象にした「田んぼまわりの生き物調査」の開催などを多年にわたり実施し、豊かな地域の自然環境をつないでいこうとする子どもを育成する取り組みが認められての受賞です。おめでとうございます。



青空高く！ タコあげ大会

1月8日(月)、富屋地区青少年育成会の主催による第56回富屋地区タコあげ大会がろまんちっく村のにぎわい広場で開催され、幼児から6年生まで42名、大人2名が参加しました。昨年度より15名ほど参加者が増えました。

学年別に5種類(ビニールダコ・ダイヤダコ・とみやダコ・駒ダコ・宮ダコ)の手作り凧に思い思いの絵を描き、オリジナル凧を空高く上げて楽しみました。図柄は、今年の干支の龍や無病息災を願う黄鮒やだるまが目を引きました。審査は学年別に行われ、図柄賞、技術賞、下野宮凧の会賞、会長賞、最優秀賞が贈られました。

タコあげは、日本の正月の風物詩です。来年もたくさんの参加をお待ちしています。



二十歳を祝う成人のつどい

晃陽中学校区の「二十歳を祝う成人のつどい」が、1月8日(月)にコンセーレで開催されました。当日は、晃陽中学校・富屋特別支援学校の卒業生、ランスタッド勤務者の計58名が参加しました。振袖やスーツなど華やかな衣装に身を包んで参加した成人の皆さんは友達や恩師との再会に喜ぶとともに、成人としての決意を新たにしていたようでした。



富屋地区のデータ
(令和6年1月末現在)
世帯数 1,604世帯
総人口 3,346人
男性 1,570人
女性 1,776人

今後の主な事業計画

4月13日(土) 連合自治会総会
まちづくり連絡協議会総会
防災会総会
社会福祉協議会総会
福祉協力員連絡会総会
青少年育成会総会
体育協会総会

編集・発行

富屋地区まちづくり連絡協議会
〒321-2116
宇都宮市徳次郎町80番地2
(富屋地区市民センター内)
☎028-665-1663